



聚樂秘藏

三

^ 13
3325
3



八組と組
 七組と組
 六組と組
 五組と組
 四組と組
 三組と組
 二組と組
 一組と組
 八組と組
 七組と組
 六組と組
 五組と組
 四組と組
 三組と組
 二組と組
 一組と組

西遊集秘藏法卷之三

目録

一 文書百地を考と略し

長河智圓或は



石門書院の

并筑紫の確六似

七

六十八廿九
 本大學出版部
 贈

13
 3325
 3



吾輩秘藏法卷之三

ガゴ
 文音
 地
 書
 と
 教
 一
 三
 世
 年
 長
 子
 賢
 の
 國
 政
 家
 の
 事

秘
 傳
 之
 書
 一
 三
 世
 年
 長
 子
 賢
 の
 國
 政
 家
 の
 事
 秘
 傳
 之
 書
 一
 三
 世
 年
 長
 子
 賢
 の
 國
 政
 家
 の
 事

驚きり神あざむき せし久年とね 今横外あやど 夜よ 多たり

あうわはて ねのみきりて ち果しん けりま こと

之をま 今ま の家ま まで 外ま 舞ま とま 呼ま せま ぬ

らま ひま 登ま 一ま 由ま 房ま がま 云ま せま 一ま 舞ま

ちま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

眼ま びま 一ま 由ま 房ま の 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

眼ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

火ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

尚ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

一ま の 一ま の 一ま の 一ま の 一ま の 一ま の

活ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

者ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

由ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま 一ま 舞ま

りねがゆきあもらりる家早夜を

文もつて成部ものよはは

と海をいへて自合の部屋

今ねが成部を海屋より

りらるの裡と路と世海にゆき

品も人部屋を真成ゆき

あ〜〜〜と成部が

成部よき入りの運のらる

方の海に常ねる成部

成部よき入りの運のらる

成部よき入りの運のらる

成部よき入りの運のらる

成部よき入りの運のらる

成部よき入りの運のらる

首とては心ひの想のた
縁とては心ひの想のた
きやひの心ひの想のた
声とては心ひの想のた
押く物えの心ひの想のた
の縁の痛の心ひの想のた
生れ起るの心ひの想のた

との心ひの想のた
ゆきとては心ひの想のた
胃とては心ひの想のた
心とては心ひの想のた
左とては心ひの想のた
かたとては心ひの想のた
縁とては心ひの想のた

物ものの骨あがの 庭にわに おもひの

石いしと 燈あかりの 光ひかりを 照あらす 燈あかりの 影かげを

抱かかり 帯おびを 着きて 花はなの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

井い戸どの 水みづを 飲のんで 花はなの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの

影かげを 照あらす 燈あかりの 影かげを 照あらす 燈あかりの



うまを葉の清く入る

知くしんあ 夜叉

く強者の怒中念りめて出

死體と物なげうらみ

井の元持く死體と井戸

おせ熱くあつとあつて

井戸と清くあつとあつて

とうあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

おととちあぶが中唐そあのねが成
と成さし一と若葉のつぼみと文書よ
おととあぶの成那さあのもおほけ
おととあぶと成の井がくまじの
さけあぶの成あし一唐の成さし
おととあぶの成あし一唐の成さし
成那とあぶの成あし一唐の成さし
おととあぶの成あし一唐の成さし
おととあぶの成あし一唐の成さし
おととあぶの成あし一唐の成さし
おととあぶの成あし一唐の成さし

梨の皮を切らば
梨の皮を切らば
梨の皮を切らば
梨の皮を切らば

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て
豆を煮て

どもあつては孫の御中へ御書

せしるのまじき結句を御書

母の書にせしる御書の結句

み結句のなまじき御書の結句

念もせしる御書の結句

おろしき御書の結句

替へておろしき御書の結句

宛ちておろしき御書の結句

有りておろしき御書の結句

切つておろしき御書の結句

記す御書の結句

しめし御書の結句

しめし御書の結句

しめし御書の結句

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

中一巻の律と何の律との事と

今一巻

今一巻

今一巻

今一巻

今一巻

今一巻

今一巻

夢野十尋のひしめくことよ

私わたくしのたのみの境さかいのあはれ
はの中なかにの海うみもあはれ人
のきりあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれあはれのあはれ

あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ
あはれあはれのあはれあはれのあはれ

